

運営者・コーディネーター研修 / ラウンジ協議会日本語分科会第2回合同研修会

どうしていますか？日本語教室の運営

～市民活動として考える、グループのこと、活動のこと～

主催：(公財)横浜市国際交流協会

日本語教室や国際交流ラウンジ等で、運営やコーディネートに関わる人の研修を行いました。

「どうしていますか？日本語教室の運営～市民活動として考える、グループのこと、活動のこと～」というタイトルで、地域の日本語教室に関わる方たち約20人が、より自分たちらしい教室運営に向け、学び合いました。

講座では「新たなボランティア仲間を増やすには？」「リーダーのなり手がいない」など、参加者がもちよった日頃のグループ運営や活動のモヤモヤを共有し、意見を出し合いました。併せて講師の妻鹿ふみ子さんによるミニ講義「なぜボランティアか」では、自由でイノベティブで信頼される存在たる、市民ボランティアの意義を伝えていただくなど、自分たちの立ち位置・活動の意義を考える機会となりました。

限られた時間ではありましたが、「自分が悩んでいることは、他の教室でも同じであることがわかった」「ボランティアの積極的な意義について理解できた」などの声をいただきました。教室を超えたつながりの大切さを感じる機会となりました。

内容	グループの立ち位置を確認するワーク / ミニ講義「なぜボランティアか」 (活動での)モヤモヤの共有 / 参加者同士の情報交換、情報共有
講師	妻鹿ふみ子さん (東海大学健康学部特任教授)
日時/場所	2025年2月21日(金)10:00-12:30 / 横浜国際協力センター会議室
対象	・横浜市内の地域日本語教室の運営やコーディネートを行う立場にある人、 係を担っている人 ・日本語支援での企画運営等のコーディネートを行う人
参加人数	21人(うち国際交流ラウンジ7人)

参加者の声

- 教室を担っている方々に直接お会いでき、活動の様子や課題意識を共有できたので、各教室を身近に感じることができました。
- 国際交流ラウンジの方や他の日本語教室の方々と直接意見交換できるのは、とても良いです。
- 地域日本語教育の現在の状況、ボランティアの強み、ボランティア団体の社会での位置付けについて今一度確認することができた。



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！



運営者・コーディネーター研修 / ラウンジ協議会日本語分科会第2回合同研修会

どうしていますか？日本語教室の運営

～市民活動として考える、グループのこと、活動のこと～

主催：(公財)横浜市国際交流協会



内容の紹介

<p>【説明】 地域日本語教育をめぐむ状況</p>	<p>外国人の受入れ拡大に伴い、日本語教育の枠組みが整えられつつあります。ボランティアが行う日本語教室の意味を考える前提・手がかりのひとつとして、国の日本語教育施策の動向について、YOKEから説明を行いました。</p>
<p>【ミニ講義】 なぜボランティアなのか</p>	<p>講師からのミニ講義「なぜボランティアなのか」では、自発性・無償性・社会性・開拓性を持つと言われるボランティアの存在理由について、アメリカのスーザン・エリスのボランティア論をもとに、具体例を添えて紹介していただきました。ボランティアは「無償であるがゆえに信頼される」「やりたい活動にフォーカスする自由を持っている」など、自由でイノベティブで信頼される存在であるとお話に、新たな気づきを得た人も多かったようでした。</p>
<p>【ワーク】 「私のモヤモヤ」の共有 など</p>	<p>研修には、市内18の団体・教室の方が集まりました。まずはグループ内での自己紹介と、教室でありがちなケース(学習者と支援者のマッチングの難しさなど)について意見交換を行いました。</p> <p>次に、この研修で話したい話題(参加者の活動場所でのモヤモヤ)を各自が出し、グループで紹介しました。そして、自分の話題(モヤモヤ)と共通点のある人で新たなグループをつくり、その話題・内容について話し合いをもちました。最後に、具体的なモヤモヤを、論点として整理していくことに取り組みました。</p> <p><モヤモヤの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援ボランティアが不足している ・教室運営にもっと主体的に関わってほしい ・教室ボランティアが、学び合う機会を作りたい ・新たな支援者を募集する方法がわからない ・学習者、学習支援者ともに、長く続けたいと思える教室となるには
<p>【ワーク】市民活動としての日本語教室の意義を考える</p>	<p>最後に、講師からのまとめとして、市民グループである自分たちの立ち位置を「パストフの(福祉)トライアングル」図で確認しました。政府(自治体)、市場(営利企業)、コミュニティ(共同体)が交わる部分がサードセクターとして重要であり、そこに市民活動の意義・必要性があることを、実際に図を書いてみながら考えました。</p>



よこはま日本語学習支援センター

Yokohama Nihongo Support Center

<https://yokohama-nihongo.com>

運営：公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)

地域日本語教育に関わる方や関心のある方
日本語学習をしたい方

「知りたい・やってみたい・つながりたい」
をサポートします！

